

Title	奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1971
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.64, No.11 (1971. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	限界革命百年記念特集
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19711101-0080

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Walras and Pareto

by Tamotsu Matsuura

This paper is focussed on one of the problems concerning the history of economics in the School of Lausanne, i. e. the theoretical relations between Walras and Pareto. The fundamental question at issue is: was Pareto only one of the epigones of Walras' general theory of economic equilibrium? I want to examine this problem through the biographical study of their correspondence.

Most historians of economic thought have considered that Pareto was one of the greatest exponents of Walras' theoretical system as his successor in the University of Lausanne. But it seems to me that such an interpretation is not correct.

Rather, I could say that Pareto endeavoured to overcome the Walrasian theoretical system and to create his own new one. I believe that only from this standpoint we can understand the true Paretian theory.

Pareto constructed the new system of social science, which was able to make a positive analysis on the decision-making process of economic policies, making use of pure economic theory: he paved the way to evolve the basis of our science from the general system of 'economic equilibrium' to the one of 'social equilibrium'.

編集後記

1871年にカール・メンガーの『国民経済学原理』とウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズの『経済学の理論』が、そして、1874、77年にレオン・ワルラスの『純粋経済学要論』が刊行されたのを機縁に、経済学史上、「限界革命」と称せられる思想の転換が起ったことは、周知のところである。今年にはちょうどメンガー、ジェヴォンズの上記の書物が刊行されてから百年目にあたるので、これを記念して国際的にいくつかの学会がひらかれている。

その第1は6月17日から19日にわたってウィーン大学で開かれたメンガーの『原理』に関するシンポジウム、第2は8月23日から27日にかけてイタリア、コモ湖畔のベラジオで開かれた「経済学における限界革命」と題する学会であり、さらに第3はマンチェスター大学で9月14日から17日まで開催された経済思想史会議で、その第3日がジェヴォンズの記念にあてられた。

日本でも明治学院大学で11月13・14日の両日にわたって開かれた経済学史学会第35回大会がこれを記念して、その第1日のプログラムを共通課題「近代経済学百年の意義」にあてた。

このような動向とならんで、本誌経済学会も本誌の本号を「限界革命百年記念特集」として刊行することとした。上に記した三つの国際的学会に出席された松浦保助教授が遠くミラノから寄稿されたことをとくに感謝する。また経済学会主催の「限界革命百年記念講演会」が去る11月11日に三田西校舎527番教室で開催され、富田重夫教授による開会の辞につづいて、気賀健三経済学部長および私たちの三つの講演がおこなわれ、盛会であった。

いまからちょうど四年前に経済学会が『資本論』刊行百年を記念して同じような企画を実行したことが想起される。「限界革命」の意義、とくにその歴史のおよび理論的必然性はまだ十分に明確にされていないといえるであろう。私たちの今回の企画がこのような点の解明にすこしでも役立てば幸とするところである。

遊部久蔵 福岡正夫

© 三田学会雑誌

第64巻 第11号

昭和46年(1971)11月1日 発行

定価200円 十 12円

編集兼
発行人

慶應義塾経済学会
代表者 遊部久蔵

郵便番号 108
東京都港区三田2丁目15-45
電話 03-453-4511
振替口座番号 東京 44056

購読料

1ヶ月 2400円, 6ヶ月 1200円(送料共)

発売所

慶 應 通 信
(購読料を添えてお申込み下さい)

郵便番号 108
東京都港区三田2丁目19-30
電話 03-451-3584
振替口座番号 東京 155497

印刷・製本 図書印刷株式会社